

4 研修

1 研究主題 「主体的に考え、ともに高め合う子」の育成

2 主題設定の理由

本校では「学び、かかわり、見つめる子」を育てたいと考え、令和3年度の研修主題を「自ら考え、共に高め合う子の育成」とし、特に「見つめる子＝主体的な学び」を意識し、国語科を窓口にして研修を進めてきた。

「読む力の育成」では、読むことの単元で単元計画表を作成し、教師と子供が共有することで、見通しを持って学習に取り組むことができるようになってきた。

「高め合う話し合いの手立ての検討」では、キャリア教育の視点を意識しながら学年団で目指す子供像を考え、単元計画の中に意図的に話し合いの場を設定したり、考えの形成、整理、交流の手立てとして、思考ツールを用いたりした。また、「キラキラタイム」を設定し、対話と言葉の力の育成を図った。「振り返りの方法や内容の充実」では、単元計画の中で初めの自分のめあてを持ち、終末には何を学んだか（学び方）や自分の成長についての自己評価を入れた。その中で、成果や課題として以下のことが挙げられた。

<成果>

- ① キラキラタイムと授業を関連付けて行ったことで、効率よく話型や言葉の使い方、語彙の指導を行うことができた。
- ② 意図的に話し合いの場を設けたり思考ツールを用いたりすることで、子供たちが考えを広げたり整理したりすることや、交流することに役立った。
- ③ 目標に対するめあて（何ができるようになりたいか）を書き、それについて自分の学習に対するめあて（どのように学習に取り組んでいくか）を書くことで振り返りがしやすくなり、次の学習につなげようとする意識が持てるようになってきた。
- ④ 単元計画を話し合い、単元計画表を作成することで、教師も子供も見通しを持って授業に取り組めた。

<課題>

- ① キラキラタイムの時間内にできることは限られている。また、学級や学年によって、取り組みの内容に差が見られた。
- ② コロナ禍で、なかなか交流できない期間があった。ICTを活用した交流の在り方について、検討の余地があった。
- ③ 中間の振り返りの視点が定まっていなかった。また、キャリア教育の視点でどのような力が付いたかを子供たちが意識したり、振り返ったりする場があまりなかった。
- ④ 単元計画については、子供の実態や身に付けさせたい力によって内容を見直し、検討をする必要がある。（特に新しく入った単元）
- ⑤ 国語科以外の教科でも、主体的・対話的で深い学びやキャリア教育を取り入れた授業を行っていく必要がある。

これらの課題を克服するために、今年度は研究主題を「主体的に考え、ともに高め合う子の育成」とし、主体的な学び＝「見つめる」に重点を置いて研修を進めていく。子供たちが主体的に学習に取り組めるように、どの教科においても国

語科で行ってきた「課題を持つ」「振り返りを行う」「単元同士のつながりを大切にする」の3点を意識して指導する。また、身に付けたい力の定着を図るために、振り返りやまとめの中で、子供たちが学んだことを自分の言葉で表す場を設けることや、子供たちが自分の考えをもって話し合いをしたり、深めて行ったりするために思考ツールやICTを活用することについても研修を進めていく。

3 令和4年度の目指す子供像 「主体的に考える子」「ともに高め合う子」

- ・「主体的に考える子」→主体的な学び（キャリア教育：見つめる子）
学習の見通しを持ち、自己の成長や学びの成果、課題を振り返ることができる子
- ・「ともに高め合う子」→対話的な学び
他者とのかかわりを通して、互いの考えを関連付け、広げ深めることができる子

4 研究内容

☆ 目指す子供像の共通理解

- ・ キャリア教育の「かかわる力（人間関係形成・社会形成能力）」、「見つめる力（自己理解・自己管理能力）」の視点を基に、目指す子供像を設定する。また、それを学年団で共通理解し、研修を進める。

○ 「主体的に考える子」の育成（主体的な学び）

- ① 身に付けたい力の明確化及び、身に付けたい力に合った言語活動の設定
 - ・ 教師が学習指導要領の内容を念頭に置き、教材研究を十分に行う。
 - ・ 身に付けたい力の定着を図るために、振り返りやまとめの中で、子供たちが学んだことを自分の言葉で表す場を設ける。
- ② 課題を持つこと及び、振り返りの定着
 - ・ 子供たちが主体的に学習に取り組めるように、どの教科においても、「課題を持つ」「振り返りを行う」「単元同士のつながりを大切にする」の3点を意識して指導する。

○ 「ともに高め合う子」の育成（対話的な学び）

- ① 交流の場の設定
 - ・ ペアやグループで話し合う時間を設ける。
 - ・ 互いの考えを広げ深めたり高めたりできるような話し合いの話型を定着させる。
- ② 思考ツールやICTの活用
 - ・ 交流の場だけでなく、子供が考えを広げたり、整理したりできる手立てとして、思考ツールやICTを活用していく。（言語活動や子供たちの実態に応じて）

5 研修計画

月	内 容 (予 定)
4/7 ^(研推) 4/20	今年度の研修の方向性についての確認 研修構想の確認、笠井小の学習のきまりの確認
5/11 6/7 6/8	目指す子供像を考える。 提案授業事前研修 提案授業・提案授業事後研修
6/22 6/29	学年・学年団研修（目指す子供像の修正・学年団研修計画を立てる） 学年・学年団研修（教材研究・指導案検討）
7/25AM 26 28AM	○夏季研修 ・学年・学年団研修（1学期の振り返り、評価、改善策、 2学期の研究授業計画・教材研究） ・教科研修（子供たちが主体的に学習に取り組むため、及び身に付け たい力の定着を図るための手立て等について） ・キャリア教育年間指導計画の見直し ・学力調査分析 ・情報（ICT）研修
8/1	中学校区合同研修会
9/1 9/14 9/28	学年団研修（指導案検討） 学年団研修（指導案検討） 学年団研修（指導案検討）
10/12 未定	学年団研修（指導案検討） 指導課計画訪問
2/13 ^(研推) 3/3	来年度の研修について（検討） 今年度の研修の振り返り（各学年の実践）来年度の研修について

6 研究方法

- (1) 子供たちの実態と、キャリア教育の「かかわる力（人間関係形成・社会形成能力）」、「見つめる力（自己理解・自己管理能力）」を基に、目指す子供像を設定する。
- (2) 目指す子供像を達成させるための手立てを考え、学び、かかわり、見つめるの3点について「キャリア教育年間指導計画」に明記し、活用する。
- (3) 年度当初に研修単元を決め、学年団研修計画を立てる。
- (4) 学年団研修計画に従って事前研究を行い研究授業等の実践を行う。
- (5) 事後研究や学期の最後に学年団研修計画を評価し、改善した取り組みを実践する。
- (6) 研修の記録やワークシート類、言語活動の成果物を学年研修フォルダや保存ケースに綴じ、次年度へ引き継ぐ。

7 研究授業について

- (1) 授業研究の種類

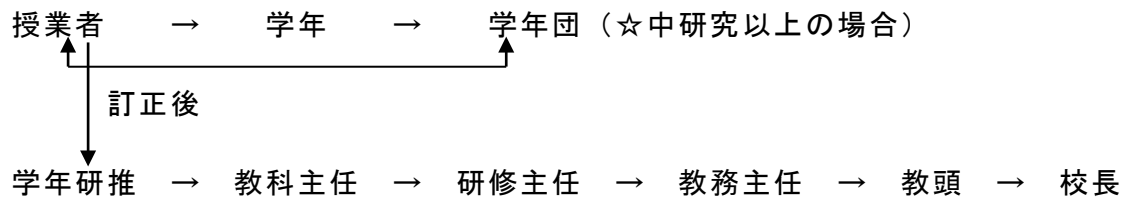
授業研究の種類	時 期	対 象
提案授業	5 月	全職員
小研究授業	1～3 学期	事前研：学年 事後研：学年
中研究授業	1～3 学期	事前研：学年団 事後研：学年団
市教委計画訪問・中心授業	未定	指導主事及び全職員

(2) 研究授業の公開

- 年間全員一人1回の授業研究を実施する。
- ◎ 同一単元で研究授業を行ってもよい。その場合は、子供の実態に応じて単元計画表や言語活動、思考ツール等を違うものにすることが好ましい。
- 学年で1～2（3）学期にそれぞれ1回以上は授業研究をすることが望ましい。

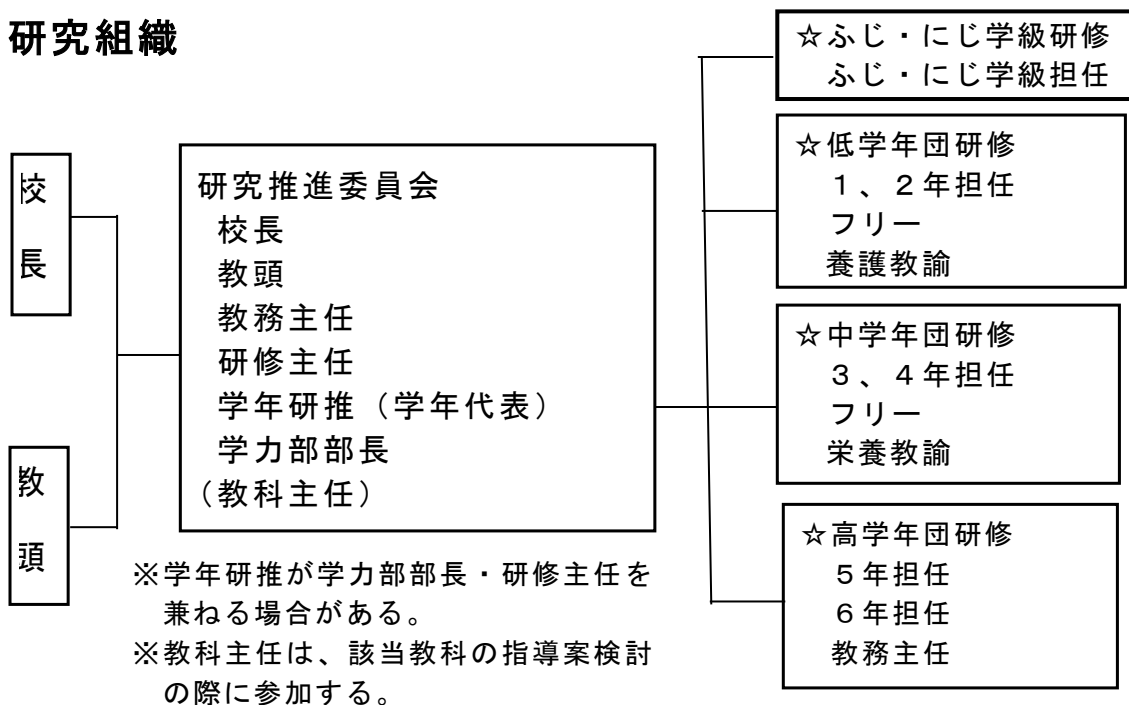
(3) 指導案

- ◎ 単元構想については、必ず教科部会でしっかり検討し、立案する。



- ◎ 指導案は、単元に入る前に起案を終了し、印刷して校長、教頭教務主任、研修主任、参観職員に配布する。（それ以外の職員については、掲示板にPDFで）

9 研究組織



10 学習習慣を育む学習環境

学習の約束

きまり	指導のポイント				
<p>1 授業の始めと終わりに、あいさつする。</p> <p>①係児童 : 「起立」 ②係・教師 : 「始めましょう」・「始めます」 ③全児童 : 「始めましょう」 ④係児童 : 「着席」</p> <p>2 場に合った声の大きさや言葉づかいに気をつけて話す。</p> <p>友達に聞こえる声で最後までしっかりと話す。 (「〇〇〇です。」まで) 【低学年】 伝えたいことを整理して話す。 【中学年】 友達の反応を確かめながら話す。 【高学年】</p> <p>3 相手の気持ちを感じ取り、反応しながら聴く。</p> <p>話す人に体を向けて聴く。 【低学年】 自分の考えと比べながら聴く。 【中学年】 話す人の考えにつなげながら聴く。 【高学年】</p> <p>4 授業に必要なものだけ机の上に用意する。 〈筆箱はしまう。〉 ・人差し指より短い鉛筆は使わない。 ・シャープペンは禁止。</p>	<p>☆机上の整とんをする。(下記)</p> <div data-bbox="965 492 1404 672" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">上から下じき ドリル 教科書 ノート</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">筆記用具</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 2px; text-align: center;">鉛筆・赤青鉛筆 消しゴム・定規</td> </tr> </table> </div> <p>☆筆箱の中には、鉛筆5本程度＋赤・青鉛筆を入れておく。</p> <p>☆声の大きさ</p> <div data-bbox="965 884 1412 1108" style="text-align: center;"> </div>	上から下じき ドリル 教科書 ノート	筆記用具		鉛筆・赤青鉛筆 消しゴム・定規
上から下じき ドリル 教科書 ノート	筆記用具				
	鉛筆・赤青鉛筆 消しゴム・定規				